

所属	発表者	講演・発表・講師・シンポジスト等	演題	発表機関等名(学会・主催者・シンポジウム等名)	発表年月日	場所・開催形式
臨床検査科	柴野 亜希子	発表	採血管一覧表を活用した採血関連事故の未然防止への取り組み	第21回富山県公的病院医療安全研究大会	2023. 6	砺波市文化会館

① 演題名：採血管一覧表を活用した採血関連事故の未然防止への取り組み

② 所属：富山県済生会高岡病院 検査科¹⁾ 医療安全管理室²⁾

職：臨床検査技師

氏名：○柴野 亜希子¹⁾ 高田 哲郎¹⁾ 加納 和美¹⁾

高林 大輔²⁾ 二谷 鶴美²⁾ 廣田 恭子²⁾

③ 要旨

【はじめに】

採血管作成の自動化に伴い、採血管作成は検査科で行うことが多くなり、看護師が採血管準備に関与する機会が減少している。ヒヤリハット報告では、看護師の知識不足による採血管提出準備時に関する事例が散見されていた。

今回、採血関連事故の未然防止のため、採血管準備や検体取扱いを表示した採血管一覧表の作成、活用に取り組んだので報告する。

【方法】

採血管一覧表はB4サイズ1枚に採血管の外観とバーコードラベル表示の見方や組み合わせ、凝固・血沈の採血量不足を防ぐ採血時の注意点、氷冷検体提出方法を記載したものを作成した。各病棟・透析室・救急処置室に掲示し、電子カルテにも情報を掲載した。掲示4か月後に当院開催のヒヤリハット報告会で採血管一覧表について詳細な説明を加えた。報告会后、採血量記載の要望があり、一覧表とバーコードラベルに採血量を追加記載した、全看護職員対象に採血管一覧表についてアンケート調査を実施した。

【結果】

採血管一覧表の掲示後、採血に関する問い合わせや採血関連事故の報告はなかった。アンケートの結果、約90%が役に立っていると回答。役に立った内容は「ラベルと採血管の組み合わせ」と「氷冷検体の提出方法」であった。

【結論】

採血関連事故の未然防止への取り組みとして作成した採血管一覧表は、詳細な内容確認ができることで知識習得の手段として効果的であり採血業務の効率化と安全性に繋がることが示唆された。

(600文字)

所属	発表者	講演・発表・講師・シンポジスト等	演題	発表機関等名(学会・主催者・シンポジウム等名)	発表年月日	場所・開催形式
看護部	西野 文人	演者	回復期リハビリテーション病棟に入棟後、せん妄となる患者の生活背景	リハビリテーション・ケア合同研究大会2023広島	2023.10	広島市

回復期リハビリテーション病棟に入棟後、せん妄となる患者の生活背景

恩賜財団富山県済生会高岡病院 西野文人¹⁾ 中田千秋¹⁾

1) 恩賜財団富山県済生会高岡病院看護部

【目的】 A 病院はケアミックス病院で、院内からの転棟数が転院より上回っている。近年、入棟者の重症化からせん妄となりリハビリが遅延したケースを経験するようになった。そこで、せん妄のリスク因子を明らかにするため①環境変化②不安・緊張③疼痛・痺れ④行動制限について調査した。

【方法】 202X 年 7 月～202X 年 11 月までの期間で条件(a.精神科受診既往がない b.向精神薬非服用 c.MMSE:27 点以上)を満たした患者 34 名中、研究同意を得られた 17 名を対象とした。調査項目は①環境変化(携帯電話・枕灯の使用)②不安・緊張(STAI 聴取)③疼痛・痺れ(看護記録)④行動制限(離床時間)で、分析方法は①・③は単純集計、②は性別により STAI と MMSE 間の相関関係を調査しピアソン積率相関($p < 0.05$)を求めた。④は平均時間を算出した。本研究は、済生会高岡病院看護部倫理委員会の承認(202104)を得て実施した。

【結果】 対象患者 17 名にはせん妄の発症は認めなかった。①携帯電話使用者 16 名②状態不安平均 45.1(± 10.3)特性不安平均 44.6(± 9.7)で、MMSE との相関関係は、状態不安 $r = 0.313$ 、特性不安 $r = 0.257$ 両者とも弱い相関であった。③疼痛 4 名、痺れ 9 名④平均離床時間 191.5 分/日であった。

【考察】 MMSE が保たれているほど不安が低い傾向にあり、せん妄に陥ることはないと示唆された。

【結論】 せん妄のリスク因子を明らかにする事はできなかったが、高不安な精神状態であっても対応できる認知機能があれば、せん妄となる可能性は低い状態になる。

所属	発表者	講演・発表・講師・シンポジスト 等	演題	発表機関等名(学会・主催者・シンポジウム等名)	発表年月日	場所・開催形式
理学療法科	中井 かおり	シンポジスト	当院リハビリテーションスタッフの 地域への関わり ～介護予防 生活習慣病予防への関わり～	第6回済生会リハビリテーション研究会	2023. 11	金沢市

当院リハビリテーションスタッフの地域へのかかわり

済生会高岡病院 リハビリテーション療法部 理学療法士 中井 かおり

高齢社会の現在、健康寿命の延伸が謳われており、介護予防、フレイル対策、認知症予防が重要視されている。

当院は、急性期・回復期病棟を備えたケアミクス病院であり、以前より、リハビリテーション療法部では、地域での介護予防教室などを実施してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により、地域に出向くことが少なくなり、地域住民に何か情報を発信できないかと考え、YouTube 動画を用いていろいろな情報の発信を始めた。

また、隣接するイオンモール高岡と協同で来客者に対し、イオンモール高岡にて介護予防教室の開催、モールウォーキングの開催などを実施した。

また、高岡市からの依頼を受け、成人男性に対し「働く男性の運動教室」を開催し、健康診断で血糖値基準を超えた人に対して生活習慣病予防についての運動指導等を行った。さらに富山県指定の地域包括ケアサポートセンターの指定を受け、高岡医療圏の地域住民へ介護予防教室や通いの場での運動指導、個別ケア会議などに参加し、専門的な助言を実施している。

今回、リハビリテーション療法部において地域に対し、取り組んでいることを報告する。

所属	発表者	講演・発表・講師・シンポジスト等	演題	発表機関等名(学会・主催者・シンポジウム等名)	発表年月日	場所・開催形式
理学療法科	岸澤 啓亮	一般演題	当院における地域の健康増進活動支援	第6回済生会リハビリテーション研究会	2023. 11	金沢市

当院における地域の健康増進活動支援

一令和4年度「働く男性の運動教室」を実施して一

岸澤 啓亮¹⁾・近村 綜一朗¹⁾・長田 治樹¹⁾・長井 貴弘¹⁾・中井 かおり¹⁾

齊藤 智裕²⁾・寺崎 禎一²⁾

1) 済生会高岡病院 リハビリテーション療法部 理学療法科

2) 済生会高岡病院 リハビリテーション療法部 部長

【目的】

富山県高岡市の男性は全国平均と比較して腹囲・BMIが増加傾向にあり、将来的に生活習慣病に至る可能性が危惧されている。当院では同市からの委託を受け、地域の健康増進活動支援として肥満の予防・改善を目的としたSNSを用いた運動指導を行ったので、その結果を報告する。

【方法】

高岡市在住の20～64歳男性を対象に、4回の運動教室を計2組（2週1回/2ヶ月）実施した。肥満の予防・改善をテーマとして理学療法士は、立案した運動プログラムを各教室で指導し、SNSを用いて運動プログラムの動画配信を行った。1組目のみ、SNSアプリのチャット機能を活用し運動の促進や実施報告を行った。各組の初回と最終回で体重・BMI・腹囲を測定・比較した。

【結果】

1組目は7名が参加し、体重7名(平均-1.78kg)、BMI7名(平均-0.61)、腹囲7名(平均-3.28cm)の改善を認めた。

2組目は9名が参加し、体重7名(平均-0.26kg)、BMI7名(平均-0.07)、腹囲7名(平均-1.05cm)の改善を認めた。

【考察】

チャット機能を用いて運動の実施報告などを行った組の方が各項目において、より改善が認められた。また、アンケートではチャット機能を用いた方が運動習慣が身についたとの感想が多かった。チャット機能を用いることで運動意欲が維持され、肥満の予防・改善に繋がったと思われる。しかし、参加者のSNSの浸透性や個人情報の取り扱いなど、今後は再検討していく必要があると考える。

【倫理的配慮、説明と同意】

本活動は、当院倫理審査委員会の承諾を得て実施した。また、参加者には本活動の趣旨を説明し、同意を得た。

所属	発表者	講演・発表・講師・シンポジスト等	演題	発表機関等名(学会・主催者・シンポジウム等名)	発表年月日	場所・開催形式
作業療法科	早木 達哉	一般演題	当院での自動車運転再開に対する取り組みについて	第6回済生会リハビリテーション研究会	2023. 11	金沢市

当院での自動車運転再開に対する取り組みについて

早木 達哉¹⁾・青城 聡夏¹⁾・荒木 忠晃¹⁾・谷口 しほ¹⁾・寺崎 禎一²⁾・丁子 雄希³⁾

1) 済生会高岡病院 リハビリテーション療法部 作業療法科

2) 済生会高岡病院 リハビリテーション療法部 部長

3) 新潟リハビリテーション大学 医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻

【目的】

脳卒中発症後の自動車の運転再開は社会参加の維持、フレイル予防に重要であり、その支援として当院では神経心理学的検査に加えて自動車運転シミュレーターを導入し活用している。しかし運転再開ができなかった場合、生活への影響は大きく、どのような神経心理学的検査などの因子が判定に大きく関係しているか興味のあるところである。そこで当院で運転再開評価を行った症例の神経心理学的検査の結果をもとに検討を行った。

【対象と方法】

対象は令和4年4月から令和5年7月までの間に脳卒中発症後の症例94件（男性61例、女性33例、平均年齢 $63.463.4 \pm 13.4$ 歳）である。対象例の年齢、MMSE、高次脳機能障害の有無、TMT A・B、レイの模写・即時再生、Kohsを説明変数としてロジスティクス回帰分析を用いて合格に影響を与える因子を解析した。

【結果・考察】

当院での合格者の年齢平均は $60.860.8 \pm 2.5$ 歳、不合格者の年齢平均は $69.269.2 \pm 5.7$ 歳であり合格者の方は年齢が若かった。ロジスティクス回帰分析の結果では、年齢($PP=0.0090.009$)、高次脳機能障害の有無($PP=0.0220.022$)に関しては有意差が見られた。年齢に関して岡本らは、「運転が再開できている特徴は、比較的年齢が若いこと」と述べており、今回の結果と合致する。年齢とさらに高次脳機能障害の有無が運転再開の可否に影響している因子と思われる。

今回、年齢、高次脳機能障害の有無、MMSEを検討したが、今後は発症後の経過、ADLの自立度など総合的なデータも収集していく必要があると考えた。

【倫理的配慮】

本活動は、当院倫理審査委員会の承諾を得て実施した。